

向陽

〒780-8014 高知市塩屋崎町1丁目1-10 TEL(088)833-4394 FAX(088)833-7373

<http://www.tosaobog.com>



応援団賞
最優秀賞にかがやく

ふるえ！ 土佐高



土佐中・高等学校同窓会
会長 岡内 紀雄
(34回生)

今年のトピックニュースは何とい
っても、春のセンバツ高校野球大会
に母校野球部が出場したことでは
う。

幸運の女神が微笑み、二一世紀
で母校が選ばれ、二〇年ぶりに甲子
園の戦いに挑むことができました。
同窓生はもとより関係者一同、喜び
に沸き返り、大挙して応援に駆けつ
け、アルプス席を埋めつくしたこと
は言うまでもありません。

往年を彷彿とさせる全力疾走で、
すばらしい戦いぶりを発揮してくれ
た選手諸君に心から感謝するととも
に、これを契機として、自らの力で
甲子園への道を拓いていただくこと
を期待しています。

また、この吉事に際し同窓会のみ
なさんには、予想を上回る多額の浄
財をお寄せくださり、誠にありがと
うございました。

甦る甲子園

秋田 学 (42回生)



第38回選抜時の42回生の選手と籠尾先生



高野山高校の当時のメンバーと(筆者左から2番目)

「センバツ」心躍り何とも懐かしく心地よい響きである。今春、第八五回選抜高等学校野球大会に私立高校として全国初の二一世紀枠に母校野球部が選出されたのである。思い起こせば昭和四二年、そう今から四七年も昔。部員僅か十二名、平均身長凡そ一六七cm、前年の新人戦では、最強チームと言われた高知商業に11-0と大敗を喫した弱小チームであった。しかしである、ひと冬越したその弱小チームは目を見張るほどの変貌を遂げていた。筆山、高見山、鷺尾山にはまだその汗は残っているであろう。その秋、四国大会に進んだ我が野球部は、高知高校とともに第三八回選抜大会への切符を手に入れた。開会式後の第一試合の高野山高校を破りあれよあれよと順調に勝ち

進み、とうとう決勝まで。相手はレギュラー十九人のうち六人がプロ入りした、とんでもない強豪中京商業(現中京大中京)。三回表ポテンヒットで一点を献上したものの、大方の予想を違え終始押し気味に試合を進めたのは土佐高であった。が、結局その一点が最後まで響き、1-10。深紅の優勝旗は幻のものとなった。その後数年間は数回の出場はあったものの部員不足と相まって長い低迷期へと突入、だが、徐々に部員数も増え新しいグラウンドも出来四五年前からは下り潮は止まり上げ潮の兆しが見え始めていた。特に学校あげての支援体制にも恵まれ三年連続の推薦に繋がったのであろう、冒頭の二一世紀枠出場である。OBの一人として嬉しくもあり少し寂しくもありといったところではある。

何はともあれまずは応援と、足は懐かしの甲子園へ。アルプス席入口は立錐の余地がないほどの長蛇の列であった。中に入ると老若男女一種異様とも思える熱気に包まれていた。レフトポール後方中段に陣取った我々も手のひらをピンクに染め、声をからしえんじ色のタオルも千切れよとばかりに振った。応援の一体感これは、その場にいらない味わえなかつたと思う。敗れはしたが「強豪相手にようやった、楽しませてくれて有りがとう」と満足感に漂える事ができた。甲子園は土佐高を忘れていなかった。

た。グラウンドで感じた甲子園、アルプス席での甲子園と二度味わう事ができた。嗚呼我々がこの土を踏んだ時は甲子園応援のバトンガールもいてこんなふうに応援してくれたんだ、その上甲子園での二十塁打の新記録も作る事ができた、と胸が熱くなってきた。そんな時思いもよらぬ話が飛び込んできた。一回戦を戦った高野山高校の当時のメンバー六人が「土佐高が出るので」と

一家五人揃つての 感激の甲子園

清谷 知郎 (52回生)

二十年前、新婚旅行で母校の甲子園応援に来て新妻と私は誓いを立てた。「子供を沢山作っていつか戻って来るぞ」と。今年の三月二四日にその夢がついに叶った。新入生で中学入試のリベンジを果たした三女は91回生、春から三年の次女は89回生、大学二年の長女は87回生、そして私は52回生。

五人並んでアルプス席の中央部に陣取る。甲子園球場全体が、「お帰り土佐高！」という雰囲気だ。六千人の大応援団はアルプス席に入り切れず、内野・外野に分かれてもらう。守備位置に全力で散るサインの姿を見たらもうダメだ。一気に涙がこぼれてしまった。

二十八名の急造応援部も気合いが入っており、学ラン姿で初回から盛り立ててゆく。実力的には浦和学院は横綱級、そして土佐高は、返り入幕力士、ぐらいの差はあった。

応援に駆けつけて来てくれていたのだ。何とありがたううれしいことか。(個々の顔は思い出すべくもないが同じ熱い思いを共有した友の面々であった)。スタンドで記念写真をと一同カメラに収まり甲子園での再会を誓った。現役の野球部員よ！是非また我々も一緒に甲子園へ連れて行ってもらいたいと心から願っている。甲子園よ！夢と感動を有りがとう。

しかし格上相手に必死にくらいつく純白のユニフォームは多くの高校野球ファンの心をつかみ、大声援に包まれてほぼ互角の戦いだ。

得点圏に再三ランナーを進めながらも敵の二遊間の超美技三つの前に本塁が遠い。七五年夏の三回戦、応援団長として懸命にエールを送っている十七歳の自分がどこかに紛れ込んでいるような錯覚も感じながらの声援。

「あの時の相手は上尾、これも埼玉か」。野球部主将の川野や玉川、応援部の仲間達、ブラバンの同級生も一緒に声を枯らしていた。

最終回に両軍通じて唯一の長打が飛び出し無死一・二塁で代打攻勢がかかる。ムードは最高潮、応援席は総立ちでスクールカラーのエンジ色のタオルを振りながらの絶叫が続く。

○対四で無念のサイレンが鳴り響いた。だが野球の神様は最後に粋な幕切れを用意してくれていたのだ。

閉会式での「最優秀応援団賞・土佐高校」の発表をテレビで見ながら男泣きに泣いた。勝利の向陽の空を聴くまでは死ねない。

「選抜甲子園応援」記

山下 彩香（土佐高三年）

土佐高校野球部が二一世紀枠でセンバツ高校野球に出場し、純白のユニフォームが伝統の全力疾走でグラウンドを駆け抜け、甲子園を沸かせたこの春。開会前、野球部が黙々と練習に励む中、もう一つ、甲子園に向けた練習が進められていた。

土佐校応援部。かつて甲子園のアルプス席で、野球部に負けじと熱のこもった応援を練り広げ、後に彼らを題材にした本まで出版されたという、なかなかスケールの大きな部である。二十年ぶりに甲子園出場が決まった際に有志が集まり、二〇一三年、臨時応援部が立ち上げられた。部員二八名、うち女子十七名。団長の野島君と高二の女子部員を筆頭に、毎日放課後、学グラに面した大階段で、声を張り上げて練習していた。



最優秀賞の盾

私が初めて応援部の取材に付いたのは、三月十六日。ちょうど野球部の練習試合があり、それまで大階段で練習をしていた応援部にとっての、初めての实战練習の日だった。展開していくゲームの中、ヒ



た。三月二日、選抜高校野球大会が開幕。それからの二日間は、テレビ中継の試合を見ながら、練習を行った。実践練習はおよそ一週間ぶりだったが、一週間前の練習試合の時とは比べ物にならないほど、素晴らしいものだった。センターは連呼をただ繰り返すだけでなく、掛け声の言葉を変え、変化をつけて、周りを飽きさせないようにしていた。部員全員の一体感も増しているように思った。そして二三日。ついに明日というこの日、中澤先生から新たな提案があった。「九回攻撃の前に一つ、曲を追加してほしい」と。

三月二四日。土佐 vs 浦和学院の決戦の日。朝六時三十分。左腕に腕章を付けた男子制服と制帽を身にまとった応援部、応援部OB、吹奏楽部とそのOBを乗せたバスは土佐高校を出発した。試合開始のサイレンが鳴り響き、野島団長の声を皮切りに始まった土佐校の応援。太鼓や吹奏楽部の音と応援団の声が、球場に響き渡る。0-4で迎えた九回表、最後の土佐の攻撃。吹奏楽部が挑発するようなメロディーを演奏し始める中、中澤先生と応援部がお揃いの臍脂色のタオルを、頭上でブンブン回し始めた。それを合図に、観客席全員、首にかけていたタオルを回し出した。前日、最後の練習で吹奏楽部から出された提案が、これだった。それまで手拍子のみだった応援に変化が起こり、応援団の



応援練習風景

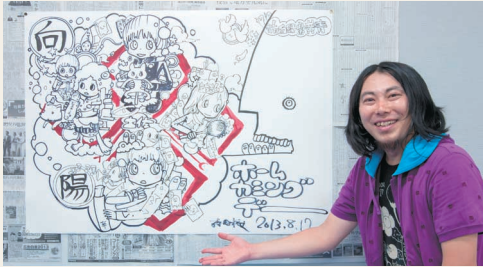
興奮も一気に高まった。私はここぞとばかりに前面のフェンスぎりぎりまで身体を寄せ、その様子を一目で見渡せる位置に移動した。ビデオカメラに収める一方、自らの目にもしっかりと焼き付けた。迫力満点。鳥肌が立った。これが土佐の母校愛だ。底力だ。絆だ。心からそう思った。涙が出そうだった。この光景は絶対に忘れられないだろう。甲子園での応援部は皆、とてもいい表情をしていた。皆がこよく、輝いていた。応援部の頑張りがまた、この春、甲子園に旋風を巻き起こしたのだ。

2013 ホームカミングデー

日時／平成25年 8月17日(土) 12:00～

ライブ・ドローイング

漫画家 森田 将文氏 (73回生)



森田氏と73回生の仲間達

特別授業

「美しい数学」

土佐中・高等学校教諭

島崎 雄一先生 (45回生)



演奏会

～いつ集まるの?今でしょ～

吹奏楽・軽音楽

現役・卒業生コラボレーション



第85回 選抜甲子園出場ドキュメント

ドキュメント放映、写真展など



土佐校体操



川上 和香 (63回生)

ホームカミングデー懇親会には、熱烈なオファーを快諾していただき、橋本正視先生が参上。ジャージに着替えた姿は、○十年前と全く変わらず、凛々しいお姿でした。

会場の「体操なんて忘れたよ」という声はどこへやら…橋本先生の力強いかけ声、若さ溢れる83回生の応援の下、いざ体操が始まると全員立ち上がり、回ったり飛び跳ねたり。後ろに反るお約束の場面では、恒例の老若“男男”の「うお～お～」という野太いかけ声が会場に響き渡り、ひと時のタイムスリップ。世代を超えた土佐校生の絆を改めて感じた一夜でした。橋本先生、ご参加いただいた皆様、お疲れ様でした。



橋本正視先生



新卒89回生の挨拶

2013ホームカミングデー実行委員会「3の会」

実行委員長 土井内 道夫 (43回生)



実行委員長をやり遂げることができ、ホッとしております。実態は、委員に名乗りをあげて下さった方々、同窓会本部役員、当日スタッフ等の皆様に助けられ、何とか、委員長の恰好がついた…というのが正直なところですよ。

昨年未だに、仕事をリタイアして関東から戻り、数人の同窓の友と飲んだ際、初めて、当行事が存在すること、今回は「3の会」が企画・運営の担当であることを聞き、「お手伝いをせよ」となったのがきっかけでした。それでも委員長とはまずいことになった…と思いましたが、今は、本当に感謝しております。

同窓会を支える方々の様々な御苦労がわかったこと、卒業以来初めてお会いした先生方と思いがけずさくに会話できたこと、現役先生に懇切丁寧に新校舎を案内して頂いたこと、我が43回生の数人が快く当日スタッフを引き受けてくれたこと、当日・当夜の参加者の熱い心意気…等々。大いに刺激を受けました。次回以降も、できる限り出席し、皆様の活力に触れていきたいと考えております。

来年のホームカミングデー 2014年8月16日(土)開催予定



「卒業35年、私が出会った 毅然とした日本人」

ノンフィクション作家 門田 隆将氏（53回生）

母校に呼んでいただいてありがとうございます。ありがとうございます。久しぶりの訪問ですが、あまりの変わりようにびっくりしました。昭和四七年、「旧々校舎」がまだ残っていた頃に学んだ者としては、食堂のあの独特なラーメンの味とともに往事が懐かしく思い出されます。

私はこれまでにノンフィクションの本を二二冊ほど書いています。歴史や事件、司法、スポーツと多岐にわたります。ご紹介いただいた近著「死の淵を見た男―吉田昌郎と福島第一原発の五〇〇日」のように、原子力の領域にも及んでいます。

なぜそんなにいろいろなジャンルを扱うのかと問われることがあります。しかし、私のテーマは一つだけ。「毅然と生きた日本人像」です。毅然と生きた人ほどの世界にもおられます。そういう人々を見つけて取材に向かいますのでいくらかでも分野は広がっていきます。が、狙いは、そこで毅然と生きた「人間」を描くことです。

ちなみにこの秋、警視庁公安部を取りあげた新刊を出します。東京が爆破テロの恐怖に晒されていた七十年代、爆破犯に立ち向かった公安警察のこと

を刑事たちの実名で描きます。

私は小学校の時からジャーナリストになると決めていました。天職と思っています。昭和五八年に中央大学を卒業して新潮社に入り、週刊新潮でさまざまな事件、現象を追ってきました。新聞記者の場合、霞ヶ関、永田町でも記者クラブ単位の取材となりますが、週刊誌ジャーナリズムはその週に起こった世の中で一番大きな出来事を扱います。週刊新潮で、データマン（取材）、アンカーマン（デスク）として二五年間働きました。特にデスク時代は七〇〇本を超える特集記事を書きました。「ギネス級」と自負しています。

傍ら、毎週の特集だけでは飽き足らなくなり、単行本を出したいと会社に頼み込みました。「裁判官が日本を滅ぼす」という恐ろしい題です。さすがに会社の役員も仰天フリーズです。「新潮社が一番やられとるやないか!」。事実、裁判官のありようにも申すのは日本ジャーナリズム界のタブー。それへの挑戦でしたから、経営陣を慌てさせたのも無理はありません。「条件がある。実名はいかんぞ。ペンネームにしろ」と。

それで、門脇護の（門）を残すとともに、平家由来の（将門）からも字をもらって、割合い安直にペンネームとしました。本は結構売れました。しかし、そのせいで私、今に至るまで裁判官からはひどい目に遭っています（笑）

続いて、こんどはライバル社の講談社から「甲子園への遺言」を出しました。「フルスイング」のタイトルでNHKの連続ドラマになりました。さらに、早稲田実業の野球部を取材して「ハンカチ王子と老エース」を刊行しましたが、さすがに、会社から「もう本を出すのはやめてくれ」といわれました。そこで、サラリーマン生活を続けるか、ジャーナリストとして独立するか、二者択一を迫られ、「本を書く道」を選んだわけです。

しかし、フリーランスの悲哀は経験した者でないと分かりません。辞めたその日から給料なしです。ベストセラーにならない限り、原稿料など、たかがしれています。それに、週刊新潮時代には部下が沢山おりましたが、独立後は本人と女房しかおりません。大勢の取材スタッフを動かしているに違いない、と言われますが、命令出来るのは本人と女房だけです。しかし、原稿量は独立前より増えています。

私の場合、幸いにも独立第一作が売れました。光市母子殺人事件を扱った「なぜ君は絶望と闘えたのか―本村洋の3300日」(WOWOWテレビでドラマ化、一〇年度文化庁芸術祭ドラ

マ部門の大賞を受賞)です。

〇八年の独立を機に、執筆者名を本名「門脇護」に戻すつもりでした。が、どの出版社からも「今から名前変えるなんて冗談じゃない。門田隆将でないと困る」と言われ、そのまんま今日に至っています。

「毅然とした日本人」を描こうとした理由についてお話ししていきます。

「甘え」とか「癒やし」とか、「自分にゴホビくください」とかいう世の風潮があります。しかし、日本と日本人はそんなものじゃあないはずだ、という思いが私にはありました。「太平洋戦争 最後の証言」三部作などで戦争の分野を扱いましたが、それは大正生まれの男たちを描くためです。今の世とは全く異質な時代を生きた世代があったということを知ってもらいたいためです。

大正生まれは一、三四八万人、うち二〇〇万人が戦死しています。実に七人に一人、こんな世代は歴史上ほかに例がありません。そして、戦場から帰ってきて彼らは黙々と働き、高度経済成長を成し遂げました。大正世代が昭和の終わりとともに社会の第一線から退いた後の日本は、崩れに崩れてしまっています。戦時中、子供だった少国民世代、戦後生まれの団塊・全共闘世代、そして私たちの世代がそれに続くわけですが、後の世代には何かが継承されなかった。何が欠落したのか? 日本を日本たらしめた「大正世代の毅然とした生き様」を見直し、その正体を見極

めなければならぬと考えたのはそのためです。

もちろん戦争は「悪」であります。手段は悪だとしても、国を守るため、家族を守るため大正世代は命をかけた。全国津々浦々を回り一四〇人に取材しました。何も「継承していない」私にとっては、どれも心が震える話ばかり。感動の連続でありました。

一四〇分の一の話を紹介いたします。今年「昭和八八年」学徒出陣七十周年です。その年、昭和十八年二月に太平洋戦争の転換点となったガダルカナルの戦いが終わっています。

皆さんガダルカナルというのは、米軍にやりまくられ補給が続かず多くの兵士が餓死した戦い、と記憶されている方も多いでしょう。しかし、調べてみるとこのガ島の戦いは、凄まじいものでした。

米海兵隊の公刊戦史に「(日本軍の)攻撃は人類が未だ遭遇したことがないほど猛烈なものだった」とあります。アメリカをしてそこまで言わしめるのは、一体どんな戦いだったのでしょうか。

ガ島の戦いは米軍が占領したルンガ飛行場争奪の戦いでした。米側防衛拠点をエドソンの丘、別名血染めの丘ともいいます。実はこの丘を突破した日本軍部隊がいたのです。それが「青葉大隊」＝仙台第二師団歩兵第四聯隊第二大隊、その第五、第六、第七中隊です。そもそもほとんどが戦死している中で生き残りを探し当てるのは奇跡に

近いのです。しかし、苦勞に苦勞を重ねてやっと、一人、見つけました。護国神社の慰霊祭参列名簿の中でした。その人が第七中隊伝令係、阿部彰昭(しよう)さんです。

「俺についてこい。死ぬときは皆、一緒だぞ」と命じ、暗闇にわざわざ目立つ白たすきをして突進する「石橋哲治中隊長殿」(中尉・陸士五三期)の後姿を追って、ジャングルががらんとうになるくらいの猛射の中、前進していきます。そして、多くの戦友を失いながらもそこを突破、飛行場の一角を占拠します。しかし、補給が続かず、やむなく退却命令。負傷した阿部さんは後方送りとなり、石橋中隊はその後、全滅します。

私がインタビュして半年後、阿部さんは「自らの使命を果たしたかのように」亡くなりました。遺言に「骨を(戦友の眠る)血染めの丘に埋めてくれ」とありました。遺骨収集の逆です。三人の娘さんたちは父の遺志通り、ガ島七十周年のとし二月、現地に赴きました。今は鬱蒼としたジャングルになつている丘に竹み、骨を八つの小袋に分け、十九歳の時の写真と一緒に埋めました。そこで、私と同じ年の末娘が「お父さんよかったね」と語りかけながら泣き崩れたそうです。阿部さんは帰るべきところに帰ったのです。

大正世代はこのように、突撃を繰り返した玉碎の戦場から帰還してもなお、多くを語ることなく、戦後を黙々と働き、自分に癒やしが欲しいなんてこと

は一言も言わず人生を閉じようとしていた。そこに私は、日本人として「毅然と生きた世代」をみます。

戦争の話ばかりになってもいけません。あの東日本震災・福島第一原発事故の対応に文字通り命を捧げた吉田所長のこともお話ししなければなりません。日本を救った男の壮絶な死(一三年七月九日死去)。吉田昌郎も「毅然と生きた男」です。

二〇一一年三月十一日、私は東京にいたのが怖かった。全電源喪失、線量増加、注水不能。あの巨大な原子力施設、放射能汚染した真つ暗な建屋に懐中電灯だけで突入しようとした男たちがいる。何度も何度も突入を試み、ついに汚染の拡大を止めた連中がいる。どういう連中がそれをやってのけたか。リーダーはどんな男か。知りたくてたまらない。一年三ヶ月もアプローチをし続けました。週刊誌の手法は「渦中の人物」の独占手記をとることで、私、それをずっとやってきていましたから。

日本のマスコミは東電バッシングしかやらない。「アト講釈」重箱「ジャーナリズム」です。「現場」はどうなっているんだ。ついに、面会謝絶の病室のドアを開けることに成功しました。吉田さんは食道がんの手術の後、脳内出血で倒れるわずか一か月間だけ自由に出歩ける期間がありました。一二年七月、私の事務所においでいただき二回にわたってインタビューが出来ました。これも奇跡的だったと思います。

日本史の年表に「黒ゴチック」で特筆されるであろう福島原発事故。そこで何が起きたのか、今の人ではなく、孫やひ孫たち、「歴史に向かつて」証言してくれ、とお願いしました。その詳細は、拙著に書きましたが、ざっくりばらんな親分肌の吉田さんは、本社から海水注入中止を命じられても、(原子炉暴走を防ぐため)こっそり注水を継続した話など、ユーモアを交えながら証言してくれました。

もしあそこで福島第一原発の暴走を食い止められなかったらー吉田さんが想定した「最悪の事態」を尋ねたら、「チェルノブイリの10倍」という答えが返ってきました。悪魔の連鎖によるものです。斑目(まだらめ)春樹・原子力安全委員長(当時)に話すと、こう述べました。

「吉田さんはそこまで言ったんですか。現場には頭が下がります。最悪の場合、福島第一だけでなく、福島第二、そして茨城県の東海第二もアウトでしょう。そうになると、汚染で住めなくなる東日本と無事な北海道・西日本―日本は危うく三分割されることでした」

日本を死の淵から救った男は、究極のストレスによってできただろう腫瘍と闘い、生涯を閉じました。

最後に土佐高の皆さんへ。土佐人の気概を持って、ジャーナリズムの分野でも意欲と志のある人材の輩出を期待します。長時間のご静聴に感謝します。(拍手)

28回生卒業60周年記念同窓会

理事長 池上武雄 (28回生)



次会でも盛り上がったとのこととす。

会に先立って有志の方々のご希望を受け、第四代目の新校舎をご案内し、多くのご芳志により免震、耐震構造の新校舎が建ったことに感謝申し上げます。

ちなみに28回生の在校時代を振り返ってみますと、まず昭和22年4月、学制改革にそつて一学年の定員が250名に増員、かつ初めての男女共学となり、222名(男子162名、女子60名)が入学しました。校舎は焼跡に立つバラック建仮校舎で、入学式は市立商業学校で行われました。

好天に恵まれた10月6日、卒業60周年を祝う同窓会がホテル日航高知旭ロイヤルの22Fレストランで開催されました。至近に母校新校舎を望めるすばらしい展望の会場で、地元はもとより関東、関西の各地から50名(男子28名、女子22名)の参加をいただきました。

会場では、記念写真のあと忽ちのうちに、懐かしい郷土料理に舌鼓をうち、土佐酒に酔い大いに旧交を暖めあつて盛り上がった会となりました。

また、3時間程の会の終了後、それぞれの趣味に合わせての二

次回の同窓会でも男性方に奮起を促したいと思っております。

47回生還暦記念同窓会

出逢えた偶然と奇跡に感謝

去る11月2日、166名の47回生が高知に集結し、還暦記念同窓会を開催した。今年米寿を迎えられた正木先生、後期高齢者突入の森本先生が来て下さり、趣向を凝らしたクラス対抗の出し物や全校体操を楽しんだ。土佐校で出逢えた偶然と奇跡に感謝した素晴らしい一夜であった。



41年ぶりの高知

乾 巨 (47回生)

41年ぶりの高知、高松から高速バスマシンに乗った感じで流石に感無量でした。中国通算25年のビジネス生活もあり、日本自体が珍しく感じる事が多い中、高校生活を送った高知はまた特別なものがあります。但、月日の流れは大きく、時に残酷な部分もあり、時に無常な部分も見え、これが還暦の重さかな?と改めて考える3日間でした。

の情况がオーバerrラップしてしまいました。

同級生の

繋がりの強さ



渡邊(濱田) 晴子 (47回生)

還暦記念同窓会。参加者は先生含め166名で大成功でした。初めての幹事の経験した私にとっては、他の幹事さん達の友人の繋がりの強さには驚くばかりです。上海や北海道からも同級生を呼んでしまおうのですから、それにしても、還暦を迎えたみんなは若かった、気持ち。卒業写真を名札とし、首にぶら下げたたん、42年前にタイムスリップしてしまいましたね。

同窓会のためそう思うのですが、今年はその気持ちにより強かったです。定年退職をいうひとつの節目のときでもあるのでしよう。

ワイワイと記念写真を撮り、各クラスの出し物を楽しみ、動かない身体で全校体操をする。そして、懐かしい人達と心おきなく話をする。久しぶりにゆったりとした楽しい時を過ごすことができました。



クラス対抗出し物・Tホーム 「書道BOYS&GIRLS」

だれなのか見当もつかない浦島太郎の状態、話す内に昔年月の長さに思い到る時間が過ぎて行きました。幹事の素晴らしい演出に時間が本当にタイムスリップする濃密な空間が楽しめ、帰国の飛行機の中でも何度もそ



朋の遠方より来たるあり、また楽しからずや

学校近況ご報告



学校長
山本 芳夫
(40 回生)

同窓生の皆様におかれては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。又、平素は母校に対し格別のご厚情とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

一、甲子園出場へのご支援ご声援に感謝

早いものでもう半年以上が経過いたしました。今もあの時の興奮と感動が蘇ってまいります。この度の二十年振りの甲子園出場に際しましては、同窓生の皆様に大変お世話になりました。試合内容と結果はご承知の通りですが、選手たちの全力疾走・全力プレーは全国の土佐高フアンの胸に再び刻まれたものと思います。その上、「応援団最優秀賞」をいただきました。応援に参加して下さった全ての皆様に改めて御礼申し上げます。

二、「より高いレベルでの文武両道」への飽くなき挑戦

野球部以外のクラブも頑張っております。詳しくは「文武両道がんばる現役生」に記載されておりますので、各種大会での運動部、文化部の活躍ぶりをご確認下さい。

一方、大学入試につきましても、いくつか改善すべき課題もございますが、総括して言えば、現役生も既卒生ともしっかりした結果を残してくれましたと評価しております。これについても、「平成二五年度入試総括」をご覧いただければと存じます。

そして、これからも「より高いレベルでの文武両道の達成」を追い求めて参ります。

三、ガーナ高校生との高知での国際交流について

今年で十回目となる国際交流行事参加の為、ガーナ高校生(二十三名)一行が来日。恒例の東京での「原宿表参道スーパードよさこい」(土佐校生十二名を含む日本の中高校生とで「連」を編制)への出場などの日程を経て、三年ぶりに来高しました。

高知には八月二十七日から九月三日まで滞在。高知城などの名所旧跡見学をする一方で和紙紙漉きや高知工科大での体験授業、本校に於ける書道(漢字習字)体験などを通じ、日本を知る大きな機会となりました。中でも、同窓生や保護者の皆さんにご協力いただいた二泊三日のホームステイは日本の文化と家庭に触れる得難い経験となり、国際交流の実を挙げることが出来ました。

四、学校行事について

老朽化が進んでいた南と東側の防球ネット、部室棟、正門門扉などの改修工事が完工し装いも新たな竹島グラウンド(新グラ)に今年も高三生が創意を凝らし制作した六クラスそれぞれの櫓が立ち並びました。そして、九月二十二日(日)、真夏日となった晴天の下で恒例の「第六六回運動会」が多くの来場者を迎え盛大に開催されました。

今後の大きな学校行事としては、十一月の高一必修学旅行(東京・京都)、年明けの一月の高校卒業式、二月の中学の合唱コンクールや中二生のスキー研修(新潟越後湯沢)などが予定されております。

そんな中で、一月十八日・十九日のセンター試験を皮切りに、大学受験が佳境に入ります。今期卒業の八十九回生と捲土重来を期す過卒生全員の志望が叶うことを心から念ずるところであります。

向寒のみぎり、同窓生の皆様のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げ近況と報告と致します。

(平成二十五年十月末 記)

振興会活動報告

会長 高木直之(57回生)

今年とは昨年と同じ役員体制で運営を行っております。私にとつては、娘も今年卒業しましたので、会長役も今年一年で満了ということになるかと思えます。来年からは、同窓会という立場で引き続きお世話になります。

さて、今年には21世紀枠での甲子園出場につきま。振興会としても何か記念をという事で、出場記念のクリアフォルダーを作りました。また、一〇月に開催された第四回県私学振興大会では、「保護者の声」の土佐校代表として、野球部キャプテン織田君のお父様に、甲子園の感動をスピーチして頂きました。その他、竹島グラウンドの防球フェンス、部室などの改修整備費に協力をさせて頂きました。新グラと呼ばれながら、随分老朽化が進んでいた設備も真新しく蘇りましたので、運動会の時などは是非ご覧ください。運動会といえば、会場で配布しているウチワは前年度のやぐら風景をデザインとして作成をしており、特に卒業生からの要望が高いようです。ホームカミングデーの時にも配布をしておりますので、その機会にゲットしてください。年二回発行の振興会だよりの内、七月発行分は今年の卒業生へも発送頂いております。受験関連など関係ある内容も多い為です。

これからも振興会は連絡協議会や各種行事への参加を通じて学校との情報交換を行い、同窓会との連携をとりながら時代に即した運営に取り組んでまいります。皆様のご理解とご協力を今後ともよろしくお願い申し上げます。

会長	高木 直之	理事	川村 進一
副会長(進学)	宮地 貴嗣	理事	上久保由佳
副会長(広報)	吉澤文治郎	理事	藤本 隆晴
副会長(総務)	島崎 留瑞	理事	近澤 博子
監事	西本 和男	理事	坂田 和子
監事	高橋 千佳		

● 合格の状況 ●

国立大学	現	過	計	進学
北海道大	2	1	3	3
北海道教育大	1	1	1	1
東北大	2	2	2	2
筑波大	1	1	2	1
千葉大	1	1	1	1
埼玉大	1	1	1	1
東京大	4	5	9	9
東京外国語大	1	1	2	2
東京学芸大	2	2	2	2
東京農工大	2	2	2	2
東京工業大	1	1	2	2
お茶の水女子大	1	1	2	1
電気通信大	1	1	1	1
一橋大	1	1	2	2
東京海洋大	1	1	1	1
横浜国立大	1	1	1	1
金沢大	2	2	2	2
信州大	1	1	1	1
名古屋大	1	1	2	2
京大	2	9	11	11
大阪大	4	4	4	4
兵庫教育大	1	1	1	1
神戸大	8	6	14	14
鳥取大	1	2	3	3
島根大	1	1	2	2
岡山大	9	2	11	9
広島大	4	1	5	5
山口大	1	1	1	1
徳島大	2	1	3	2
香川大	7	4	11	10
愛媛大	3	1	4	4
高知大	17	9	26	25
佐賀大	1	1	1	1
九州大	2	2	2	2
鹿児島大	1	1	1	1
計	80	59	139	127
昨 年	75	46	121	110

公立大学	現	過	計	計
首都大学東京	1	1	2	1
横浜市立大	1	1	1	1
都留文科大	1	1	1	1
大阪市立大	1	1	1	1
大阪府立大	2	2	4	4
兵庫県立大	2	2	2	2
岡山県立大	2	2	2	2
県立広島大	1	1	1	1
高知県立大	4	4	4	3
高知工科大	3	2	5	4
計	15	8	23	19
昨 年	14	12	26	21

私立大学	現	過	計	進学
酪農学園大	1	1	1	1
自治医科大	1	1	1	1
国際医療福祉大	1	1	1	1
埼玉医科大	1	1	1	1
城西大	1	1	1	1
獨協大	1	1	1	1
東京歯科大	1	1	1	1
青山学院大	2	5	7	3
亜細亜大	1	1	1	1
大妻女子大	1	1	1	1
学習院大	1	1	2	1
学習院女子大	1	1	1	1
北里大	6	6	1	1
杏林大	1	1	1	1
慶應義塾大	5	10	15	8
國學院大	3	3	3	3
国際基督教大	4	4	1	1
駒澤大	3	3	3	3
芝浦工業大	1	1	1	1
順天堂大	1	1	1	1
上智大	5	5	5	5
昭和	4	4	2	2
成蹊大	5	5	5	5
成城大	2	3	5	3
専修大	4	4	1	1
中央大	7	9	16	5
津田塾大	2	2	2	2
帝京大	2	2	4	2
東京音楽大	1	1	1	1
東京経済大	3	1	4	4
東京農大	1	7	8	1
東京理科大	5	17	22	3
東洋大	1	1	1	1
日本大	1	5	6	3
日本社会事業大	2	2	2	1
日本獣医生命科学大	1	1	2	2
日本女子大	2	1	3	3
法政大	5	3	8	1
武蔵大	1	1	1	1
東京都市大	1	1	1	1
武蔵野音楽大	1	1	1	1
明治大	18	17	35	8
明治学院大	1	1	1	1
立教大	11	7	18	5
早稲田大	11	26	37	18
洗足学園音楽大	1	1	1	1
昭和音楽大	1	1	1	1
横浜薬科大	1	1	1	1
金沢医科大	1	1	1	1
愛知学院大	1	1	1	1
中大	1	1	1	1

私立大学	現	過	計	進学
藤田保健衛生大	1	1	1	1
豊田工業大	1	1	1	1
名城大	2	2	2	2
京都外国語大	1	1	1	1
京都産業大	3	4	7	1
京都女子大	1	1	1	1
京都薬科大	3	1	4	1
同志社大	19	7	26	8
同志社女子大	2	4	6	1
佛光大	1	1	1	1
立命館大	37	39	76	7
龍谷大	7	9	16	2
大阪工業大	1	1	1	1
大阪体育大	1	1	1	1
大阪薬科大	4	2	6	1
関西大	12	17	29	2
関西医科大	1	1	2	1
関西外国語大	3	3	2	2
近畿大	15	7	22	3
摂南大	1	1	1	1
四天王寺大	1	1	1	1
関西学院大	28	22	50	10
甲南大	2	2	2	1
神戸学院大	5	6	11	0
神戸女学院大	2	1	3	1
神戸女子大	1	1	1	1
神戸薬科大	4	1	5	5
武庫川女子大	1	1	1	1
姫路獨協大	1	1	1	1
天理大	1	1	1	1
岡山理科大	4	3	7	5
川崎医科大	1	1	1	1
吉備国際大	2	2	2	2
川崎医療福祉大	3	3	3	1
徳島文理大	1	3	4	2
四国学院大	1	1	1	1
松山大	6	4	10	2
久留米大	1	1	1	1
計	277	290	567	140
昨 年	334	218	552	138

短大	1	1	2	2
留学	2	2	2	2
専門学校				
防衛大	1	1	1	1
防衛医科大				

平成25年度入試総括

進路部長 岡松 宏明 (51回生)



今春の入試結果をまとめて報告します。今年のセンター試験は国語と数学の難化で全体の平均点が大幅に下がる波乱の幕開けでした。本校生は、そんな中でも着実な結果をあげることができました(表参照)。東大・京大合計で20名、一橋、東京工業、北海道、東北、

名古屋、大阪、九州と難関とされている全国の大学に複数の合格者を出したことは、本校の生が学力的にしっかりとした力を持ち、なおかつ広い視野を持ち進学を考え高い目標に向かって精進したことを示しています。昨年一昨年のように週刊誌の全国ランキングの上位とまではいきませんが、医学部は国立公立21名が合格、現浪あわせてよく頑張った結果でした。私大は関東では早・慶・明・立教・中央・理科大、関西では関関同立で例年通りの多数の合格者を出しました。関学は進学者も10名と、神戸大と合わせ神戸人気の高さが感じられる結果となっています。

最近、入試に関して色々な話題が取りざたされています。政府の教育再生会議が「到達度テスト」の導入計画を発表しました。複数回のテストで高校学習の成果を確かめるとともに、センター試験に変わる新たな試験として検討しています。高校現場としては課題も多く実現には多くの問題の克服が必要との認識です。今大学は時代の要請を受け、授業の改善・留学制度の充実等、グローバル教育を推進する動きが顕著です。また国内の大学を飛び越え海外の大学に進学する受験生も話題になっています。本校でも今年2名が海外の大学に進学しました。高知では県立大と工科大のキャンパス乗り入れが決まり将来的な統合も考えられます。高知大は新設学部準備中など大学を巡る環境はこれから変化していきます。す。しかし、制度がどう変わるにせよ日々の授業を中心としたしっかりした取り組みで、大学・社会で活躍できる実力を蓄えることのできる真摯な教育をこれからも継続していきたいと思いま

全国大会に出場した運動部

●高校インターハイ

【団体】 登山部、ハンドボール部（女子）

【個人】 陸上部：大峯花乃子

バドミントン部：柿本恭平・竹内鮎彦

空手道部：池田康一郎

テニス部：大原優作

●中学校大会

【個人】 弓道部：澤本佑里佳

柔道部：山村航洋・伊與木賢人

高校県体

【団体】 優勝 登山（5年連続17回目）

ハンドボール（女子、2年連続3回目）

水泳（男子、3年連続6回目）

2位 ソフトボール

バドミントン（男子）

3位 ハンドボール（男子）、空手道、自転車

ベスト4 バレーボール（男子）、テニス（男子・女子）

バドミントン（女子）

【個人】 優勝 陸上：女子400m障害（大峯）

水泳：男子200m個人メドレー（塩見）

800mリレー（塩見・大原・梶原・田塾）

バドミントン：男子ダブルス（柿本・竹内）

中学高知市体

【団体】 優勝 水泳（男子）、ハンドボール（男子）、柔道、テニス（女子）

2位 サッカー、バドミントン（男子）、ハンドボール（女子）

ベスト4 テニス（男子）

【個人】 優勝 陸上：男子1500m1年（山本）

水泳：男子50m自（徳弘）、100m自（徳弘）

100m背（高橋）、200m背（高橋）

100mバタフライ（森田）

200mバタフライ（森田）

200m個人メドレー（松田）

400m個人メドレー（松田）

400mリレー（徳弘・高橋・松田・森田）

400mメドレーリレー（高橋・徳弘・森田・諏訪）

女子200m背（北添）

100mバタフライ（大塚）

バドミントン：男子シングルス（岩本）

柔道：55kg級（恒石）、66kg超級（伊與木）

中学県体

【団体】 優勝 水泳（男子、6年連続12回目）

ハンドボール（男子、4年連続19回目）

テニス（女子、初優勝）

2位 ハンドボール（女子）

サッカー

3位 バドミントン（男子）

ベスト4 テニス（男子）

【個人】 優勝 水泳：男子100m背（高橋）、200m背（高橋）

200m個人メドレー（松田）

400m個人メドレー（松田）

400mリレー（徳弘・高橋・松田・森田）

400mメドレーリレー（高橋・徳弘・森田・諏訪）

テニス：女子シングルス（岡村）

ダブルス（岡村・濱）

柔道：90kg級（伊與木）

90kg超級（山村）



全国大会に出場した文化部

【棋道部】 第49回全国高校将棋選手権大会（藤吉・森尾・山本）
第9回文部科学大臣杯中学校将棋団体戦（坂本・竹内・喜多）

【放送部】 第37回全国高校総合文化祭・放送部門

アナウンス部門（西村）

朗読部門（西岡・山崎）

第60回NHK杯全国高校放送コンテスト

アナウンス部門（仲嶋・西村）

ラジオドキュメント部門（笠原・西峯・安光・五島・森・植村）

第30回NHK杯全国中学校放送コンテスト

アナウンス部門（宮部・橋本・北条）

朗読部門（原・藤本）

【映画部】 第60回NHK杯全国高校放送コンテスト

テレビドキュメント部門（植田・武内）



【写真部】 第37回全国高校総合文化祭・写真部門（西村）

【俳句同好会】 第16回俳句甲子園（川村・井上・岸本・塩田・宮崎）

【その他】 数学甲子園2013（岡本・橋本・公文・島田・高橋）

関東支部

黄川久美子 (47回生)

土佐を出てから四十余年。
今年、私たち47回生は「還暦同窓会」という大イベントを迎えます。

心は紅(厚?) 顔の美少年、美少女のままなのに、尾崎知事・広末涼子ちゃん主演の「高知家」では、涼子ちゃんから間違いなく「おばあちゃん!」と呼ばれる年代になり、「光陰矢の如し」を実感せずにはいられません。

さて、私が住む関東は同窓会各支部の中でも大世帯で、性別、年代をこえ様々な部会が活動中です。今日は、その中の幾つかのお話をさせていただきます。

☆例年、六月第一週末に行われる
〈支部総会〉

今年春の選抜大会出場の喜びをそのままに、講師に東大野球部監督の浜田一志さん(58回生)。来賓として野球部の新旧監督(高多倫正さん・47回生、西内一人さん・59回生、野球部OB会長(寺尾郁夫さん・40回生)や嘗ての野球部の皆様方に多く集まっていた大盛り上がりのお総会・懇親会となりました。

☆十月の〈第16回はちぎん会〉は、講師に森木房恵さんをお招きしました。



お・も・て・な・し・♡...
関東支部はちぎんの面々
森木さん (39回)
は、高知から世界に通勤! するユナイテッド航

空の現役客室乗務員。
会場は、ユナイテッドの機上ならぬ、東京湾クルーズの船上。

当日は、森木さんのはちぎんの域を遥かに超えたご活躍と若々しいお姿にすっかり魅了され、元々元気なはちぎん(8K)の皆様が帰りに16K、24Kとなつて光り輝きながら家路に向かわれました。はちぎん魂を応援していただくナイトとして今回名乗りを上げて下さった片岡方相さん(40回生)には大感謝です!
☆他にも、筆山会、若手の会、ハイク(山歩きと俳句)の会、将棋を楽しむ会等々私の知らない世界が展開されているようです。

こんな関東支部に属する私ですが、全国の支部、本部の皆様との交流を通して未知なる世界を教えてください。高知家のおばあちゃんとしては、まだまだ成長を願っています。否、日本国内に留まらず世界に羽ばたく我が土佐校のOB、OGを思う

と、そのうちにアメリカ支部とかインド支部とか訪問する日が来るかもそんな少し早目の初夢など見る、今日この頃です。

東海支部

瀬沼憲司 (64回生)

同窓生の皆様、こんにちは。二〇一三年の東海地方のスポーツは、プロ野球の中日ドラゴンズが6チーム中4位、サッカーJ1リーグの名古屋グランパスが、一〇月三十一日時点で18チーム中12位と、非常に寂しい結果となっております。両チームとも監督が替わることが発表されています。特に名古屋グランパスのストイコビッチ監督は、二〇一〇年にチームを初優勝に導いてくれただけに非常に残念です。しかし、監督が替わるといことはチームががらりと変わるといこと事です。新しくなったチームが野球・サッカーとも新しい風を吹かせてくれることを期待しています。

さて、東海地方のスポーツは残念ながら結果でしたが、街の様子は少しずつ明るくなってきた感があります。やはり輸出企業が多い東海地方ですので、為替相場の影響もあり景気も上向いている感じがそれなりに見られるようです。ただし、それが我々の所までしっかりと降りてくるのは、もう少し時間がかかるようですので、地道に頑張っていかなければなりませんね。
二〇一三年の東海支部は、皆さんと同じように、三月二四日のセンバツ応援で非常に感動して始まったと言っても過言ではありません。幹事揃って観戦させていただきました。そして五月一八日に総会を開催し、一月三〇日に冬期懇親会を開催予定です。
参加者は20名ほどの少人数となっておりますが、和気藹々・アットホームな感じとなっております。ここ15年ほど私が一番の下っ端という状態のままではありますが、なんとか若手に参加してもらおうと頑張っております。皆様には東海地方のOB・OGにお知り合いがありましたら、是非東海支部に参加していただけるようにお伝え願います。
なお、来年の東海支部総会は五月二四日に開催の予定をしております。皆様も機会がありましたら、是非東海地方にもお越しください。



関西支部

幹事 岡田泰代 (61回生)

同窓生の皆様、初めまして。本年度より関西支部のお手伝いをさせていただきますことになりました、61回生の岡田と申します。

学生生活を高知で送り、就職後も高知・高知と地方都市でウン十年暮らしてまいりましたが、昨年春にご縁があり、父の故郷でもある大阪へ転居してまいりました。都会に住むのは初めてで不安に思うこともありましたが、見知らぬ土地でやはり心強かったのが母校の大先輩、同級生など同窓の皆様方の存在でした。今回お声掛けをいただき、高知を離れてもこうして、また再び母校の活動に関わっていただけることを非常に嬉しく思っております。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

今年の関西支部は、春のセンバツ高校野球に母校が21世紀枠で20年ぶりの甲子園出場というビッグイベントで盛り上がりました。全国から多くの同窓



老舗「ぎをん二軒茶屋中村楼」にて生が甲子園球場に集結。午後2時の試合開始にも関わらず、正午過ぎには3塁側アルプスタンド入場券は売切れるという熱狂ぶり。関西支部でも、

応援にいらつしやる同窓生の皆様方へのチケットや応援グッズの配布のお手伝いをさせて頂きました。予想を大きく超える方々にご来場いただき、試合開始前から甲子園球場入り口前はラッシュアワーの電車さながらの大混雑。そのような中でも、さすが土佐校。アルプスタンドでの渾身の応援が、最優秀応援団賞を受賞したことは皆様ご存知のとおりでございます。試合の結果は残念でしたが、後輩諸君がいつかまた近い将来、甲子園で熱い戦いを見せてくれると信じております。

その甲子園の熱狂が冷めやらぬ四月には、京都八坂神社の門前茶屋、老舗「ぎをん二軒茶屋中村楼」さんで今年度の総会・親睦会を開催いたしました。あいにくの小雨模様でしたが、ご来賓十三名を含む九十二名の方々にご出席いただき、雨に煙る古都の桜を愛でながらの総会となりました。今年は京都観光を兼ねて他支部から前日より参集し、より親睦の深まるひと時を過ごせたいと思います。

また、関西支部では毎月一度「B・OG交流会」と称して「おきやく」を開催しております。まだまだ参加人数が少ないので、もっと多くの方に参加いただけるようになれば、と思っております。これからも微力ながら、関西支部の活動を盛り上げていきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

同窓生の皆様の益々のご活躍を祈念いたしまして関西支部だよりとさせていただきます。

広島支部

支部長 沖田道子 (41回生)

今年度は広島カーブの健闘で一瞬盛り上がった広島より、七月の東部懇親会と十一月の支部総会準備作業風景の報告をいたします。

今年も、七月三日には支部役員が尾道を訪れ、東部懇親会を開きました。山本紳(55S)幹事ご紹介の割烹料亭「魚信」は、尾道水道の目の前に佇む由緒正しい歴史のある割烹料亭。清々しい海の香りと、新鮮な魚介類の見事なお料理を囲み、楽しい語らいのひと時を過ごしました。

一月九日には広島アンデルセンで広島支部総会を開きます。平成元年に発足した広島支部も創立25周年を迎え、森郁夫関東支部支部長(41K)の講演を計画しています。開催に先立って九月一日に案内状の発送準備作業をしました。都合のついた幹事が午前中から沖田家に結集。お昼からは藤川正宗(72O)幹事が一家でお手伝いに来て下さるとのこと。先に着いた六人で作業を進めていきましたが、いつもは三〜四時間かかる作業が急ピッチで進み、なんと一時間で終了しました。長年発送作業をしているベテランがたくさん集まったにしても新記録で驚きました。

正午前には、藤川ご夫妻と小学校一年生を筆頭に三人の息子さんが到着しました。我が家の娘一家も加わって70才から0歳まで総勢15人でゆっくり昼食を楽しむことが出来ました。急遽

日時が決まったこともあり、今回のお昼は今年春広島にオープンした話題の大型スーパー「コストコ」で食糧を調達してきていました。



値段と量と質からみて適当で、こういう人数の分らない集まりの時に簡単に準備出来ます。イクラや雲丹、貝柱にサーモンがいっぱい握り寿司とちらし寿司に、一袋に何十個も入ったパンとサラダ。デザートはテイラミスでしたが、さすがアメリカサイズ、ずっしり大きくてなかなかなくなりません。それらの巨大サイズのコストコのお料理、皆さんまだ食べたことがなかったそうで、よい機会でした。

食事の後は、あちこちで議論が始まり、笑い声が続きました。高知や土佐高や選抜での甲子園の話題が飛び交っています。子供たちも元気でました。楽しかった！次は、バーベキューかさくらんばパーティーですね。

いつもこんな風に賑やかに集合しています。準備の段階から、年齢や仕事を越えた交流が出来る土佐中・高等学校同窓会は、本当に貴重な集まりです。皆様、ぜひ広島支部をお訪ねください。

香川支部

顧問（前事務局長） 武山正人（40回生）



皆様、ご無沙汰です。土佐に一番近い支部香川から近況をお知らせします。

この一年は、香川は「瀬戸内国際芸術祭2013」でスタートしました。ご存知の方もおいでと思いますが、三年に一度開催されます。今年も前回より趣向を凝らし、三期に分けて開催されました。春、夏、秋の三シーズンです。予想をはるかに超える来場者であったようです。若者と外国人が目立ちました。うどん県以外にこれといったヒットのない香川は、よさこい踊り、阿波踊りに対抗すべく知恵を絞っているところ

です。今年第18回支部総会は、七月六日に、例年通り高松シンボルタワーでおこないました。瀬戸の夕焼けと屋島の遠景を眺めながら楽しいひと時を過ごしました。来賓として、山本芳夫校長をはじめ、同窓会本部から西山彰一幹事長、宮地貴嗣副幹事長、各支部からは西森さと常任幹事（関東）、山崎博司幹事長代理（東海）、藤原由親幹事（関西）、山本紳幹事（広島）の出席をいただきました。今回の総会では支部役員

の改選が行われ、大黒英男新支部長、上池裕新幹事長、野村喜久新事務局長が選任されました。また各支部との交流として、関西支部総会には安岡支部長、東海支部には福原事務局長、広島支部には上池幹事長、関東支部には私武山が出席しました。各支部の皆さんその際はお世話になりました。ありがとうございます。私ごとになりますが、このたび事務局長を引くにあたり、一言お礼を申し上げます。香川支部は本部とは陸続きの身近な支部です。歴史は古いのですが、一度活動を休止した経緯があります。支部活動を再開して18年、その間事務局長を務めさせていただきました。今は若い事務局メンバーが中心になって活動しており、総会参加人数も40名前後と軌道に乗ってきています。これからも支部活動続けるためにも皆様のご協力をお願いするとともに、今後とも香川支部を宜しく願いいたします。



北海道支部

事務局長 山本隆昭（53回生）

事務局の山本です。一〇月一六日に、台風の影響で道東の平地でも所によっては20cm程雪が降ったようですが、札幌市街ではまだです。一〇月二〇日頃に飛ぶと一週間程で雪が降る、と言われていた雪虫を見たのもうすぐかと覚悟をしていたのですが、昨年は一二月一八日の初雪で12年ぶりの遅さでした。今年はどうなるのでしょうか。市内の紅（黄）葉はちょうど見頃になっています。

北海道支部のこの一年間についてお知らせいたします。北海道支部の主活動は、支部総会ですが、平成二四年度は来賓として、土佐高校より山本校長先生、岡田先生、同窓会本部より北村副会長、関東支部より中平理事にご出席いただき、一月三日に開催しました。この総会で、平成二五年度からの役員改選が行われ、植村隆さん（52回生）が新役員に選出されました。その他の役員については再任となりましたが、今年四月に先川幹事長（45回生）が高知工科大学の特任教授に就任されたため、和田支部会長が暫定的に幹事長を併任していました。

平成二五年度の総会は、九月二一日に開催し、同窓会本部から岡内会

長、北村副会長、関東支部から森支部長、市川幹事長、二宮事務局長、広島支部から大谷事務局長にご出席いただきました。例年、学校から校長先生が教頭先生にご出席いただいていたのですが、体育祭と重なってしまいました。今年は残念ながら出席していただきませんでした。その代わりに山本校長先生からは、支部会宛のご挨拶状をいただき、岡内会長に代読していただきました。当日は良い天気に恵まれ、他支部の皆様には快適な北海道を楽しんで頂けたのでは無いかと思います。また、この総会では、正式に和田支部長が幹事長を併任することになりました。

最後になりますが、今後も北海道支部を宜しく願います。来年度の総会の予定はまだ立てておりませんが、機会がありましたら是非ご出席ください。心よりお待ちしております。



土佐高等学校先輩・後輩交流会2013



北川 力
(70回生)

生108名の皆様とともに開催いたしました。

七年目となる今年は、昨年と同様に、「その年に開催されるホームカミングデーの周知・応援」をテーマに掲げ、ホームカミングデー幹事回生である「3の回生」をはじめ、多くの同窓生の協力を得て、目標の参加者100名を達成することが出来ました。

また今年から、交流会の案内をさせていただく方々に、高知県在住の学年幹事、クラス幹事を含めた「同窓会役員・幹事会」の皆様、そして土佐高等学校卒業生で母校の教職員をなさっている「在校幹事会」の先生方を加えることができました。

来年からは、今まで七月に開催しておりましたこの交流会を、五月下旬と一月下旬の年二回開催とし、これまで平日に開催しておりましたものを、幡多地域など、遠方在住の同窓生の皆様も、少しでも参加しやすくなるように土曜日開催などを試みてみようと考えております。

よく飲み、よく語り合う土佐人らしい集まりです。さらに多くの高知県在住同窓生の皆様のご参加を心からお待ちしております。

最後に、今回、ご参加いただいた皆様、また、ご案内をさせていただいた皆様には心から感謝申し上げます。

平成二五年七月四日、午後七時より、高知市の城西館において、高知県在住同窓生による交流会、「土佐高等学校先輩・後輩交流会」を、山本芳夫校長、横田整二同窓会副会長、西山彰一同窓会幹事長をはじめ、同窓



「ヤグラ」のうちわ



毎年運動会で好評のうちわ。ホームカミングデーでも配布しています。前年の高3生が作ったヤグラがデザインされています。毎年集めてコレクションしてみたいか？次回は89回生（現高3）のヤグラです。



女流棋士
鳥井咲緒里プロ
(74回生)

来たる!!

10月29日(火)、女流棋士の鳥井咲緒里プロが本校を訪れ、本校生と将棋指導対局を行ってくださいました。鳥井プロは、本校74回生で在学中にプロ棋士になり、以来活躍を続けています。一度に8人の生徒を相手してください、生徒が一生懸命に考えて打った一手に真剣な眼差しで小さく「ウン」と手を認め、すばやく次の手を打つ様子が印象的でした。

(土佐中高等学校HPより)

編集後記

11月2日「土佐高47回生還暦記念同窓会」。私たちの原点ともいえる土佐校の仲間たちと共に、人生の再スタートが切れたことを嬉しく思う。「人生の第二フェーズ」に突入した今、「多くの偶然とさまざまな奇跡」によって、今ここに存在することに感謝し、やはり土佐校生でよかった、土佐校で学べてよかった、土佐校で出会えてよかったと心から思う日々である。

北村恵美子 (47回生)

母校／同窓会本部／各支部

- 土佐中学・高等学校 事務 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10
(TEL) 088-833-4394 (FAX) 088-833-7373 (E-mail) tosa@tosa.ed.jp (HP) <http://www.tosa.ed.jp/index.html>
- 土佐中学・高等学校同窓会本部 会計幹事 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10
(TEL) 088-833-4394 (FAX) 088-833-7373 (E-mail) tosa@tosa.ed.jp (HP) <http://www.tosaobog.com/>
- 同窓会北海道支部 事務局長 山本隆昭 〒001-0018 札幌市北区北18条西6丁目 ARTE 88-305
(TEL) 011-756-2817 (FAX) 011-756-2817 (E-mail) yamat@den.hokudai.ac.jp
- 同窓会関東支部 事務局長 二宮潔 〒100-8222 東京都千代田区丸の内2-6-1 丸の内パークビルディング森・濱田・松本法律事務所 弁護士市川直介気付
(TEL) 03-5223-7719 (FAX) 03-5223-7619 (E-mail) naosuke.ichikawa@mhmjapan.com (HP) <http://www.tosako-kanto.org/>
(E-mail) kininomiya@ykh.chiyoda.co.jp / ninomiya@iris.ocn.ne.jp
- 同窓会東海支部 事務局長 瀬沼憲司 〒455-0064 名古屋市中港区本宮町6-7-5 フォレスト本宮201
(TEL) 052-837-5834 (FAX) ナシ (E-mail) knzss@kza.biglobe.ne.jp (HP) <http://tosakotokai.web.infoseek.co.jp/>
- 同窓会関西支部 事務局長 原田和人 〒662-0015 兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-67-205 原田方
(TEL) 090-1073-7822 (FAX) ナシ (E-mail) harada73@hotmail.com
- 同窓会広島支部 事務局長 大谷準一 〒734-0007 広島県広島市南区皆実町6-3-26-902
(TEL) 082-253-5759 (FAX) 082-254-7523 (E-mail) spat56z9@vesta.ocn.ne.jp (HP) <http://www.geocities.jp/hiroshimashibu/>
- 同窓会香川支部 事務局長 野村喜久 (担当=大石浩) 〒760-8573 高松市丸の内2番5号 四国電力(株)
(TEL) 050-8801-2610 (FAX) ナシ (E-mail) ooishi11737@yonden.co.jp